

「聞く」「話す」指導から、無理なく音と文字を結びつける外国語教育の在り方
ー絵本を活用した単元構成の工夫を通してー

1 テーマ設定の理由

これからの小学校英語教育には、「読む」「書く」を含めた総合的な資質の育成が求められている。この課題を解決するには、児童の実態に合った絵本を活用した授業を中心に単元構成を工夫することが有効であると考え。絵本の読み聞かせは、子どもの想像力や好奇心を育て、ことばや認知の発達に効果がある。また、絵と文字があることで、子どもが単語や英文を認識し、意味を理解しやすくなるとともに、発達段階に応じた絵本を選び、音声と文字を一致させることで、学習効果を期待できる。絵本を読み聞かせることで、音声によるインプットを行い、他者に読み聞かせをするなど絵本の活用を通じた単元構成を工夫する。絵本を活用した単元を構成することで、自ら英語の文字を読もうとし、文字を書き写そうとするなど、英語の音と文字を学ぶ楽しさを体験できる外国語教育を追究するために本研究テーマを設定した。

2 研究仮説

- (1) 学習内容に合った絵本を指導方法を工夫して読み聞かせていけば、児童は無理なく文字に慣れ親しむだろう。
- (2) 目的を明確にして絵本を活用していけば、児童は主体的に学ぼうとするだろう。

3 研究の内容

- (1) 仮説1に関しての手立て
 - ア 学習内容に合った絵本の選定方法
 - イ 絵本の活用法と指導法の工夫
- (2) 仮説2に関しての手立て
 - ウ 学習の課題を明確に設定し、絵本を活用する単元構成の工夫以上の手立てをもとに、学習活動を行う。授業後、音と文字が結びつくようになったかを、技能面アンケートで測定し、実態調査と比較することで結果を考察した。

4 結論

- (1) 学習内容に合った絵本を活用することで、児童が意欲を維持しながら文字を学習し、無理なく音と文字を結びつけることができた。
- (2) 単元全体や帯活動で絵本を活用し、指導方法を工夫することで、児童が文字を頼りに単語や英文を読もうとするようになった。
- (3) 児童が夢中になって取り組める目的を設定することで、主体的に文字を読んだり、書いたりするようになった。

1 研究テーマ

「聞く」「話す」指導から、無理なく音と文字を結びつける外国語教育の在り方
ー絵本を活用した単元構成の工夫を通してー

2 テーマ設定の理由

(1) 次期学習指導要領に向けて

次期学習指導要領では、小学校中学年で外国語活動を開始し、高学年では教科として外国語を実施する方向で、具体的な施策が公表されている。完全実施までには時間があるが、今回の改訂では外国語教育の考え方が大きく改善される。今後の外国語教育の方向性としては、小・中・高を通じて「英語で何ができるようになるか」という観点から、4技能に係る一貫した具体的な目標が示された。小学校では、中学年から外国語活動を開始し、音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことの定着を目指すとともに、積極的に「読む」「書く」ことに慣れ親しみ、コミュニケーション能力の基礎を養うことが加わった。小学校で外国語活動から教科としての外国語の授業を実施するために、児童の発達段階に合わせた指導が、どのようにできるのか考えていかなければならない。

(2) 児童をめぐる現状と課題から

日本では、人々が英語を初めとする外国語を日常的に使用する機会は限られている。しかしながら、2020年には、東京オリンピック、パラリンピックを迎える。さらに現在、学校で学ぶ児童生徒が卒業後に社会で活躍するであろう2050年頃には、我が国は、多文化・多言語・多民族の人たちが、協調と競争する国際的な環境の中にあることが予想される。そうした中で、国民一人一人が、様々な社会的・職業的な場面において、外国語を用いたコミュニケーションを行う機会が格段に増えることが想定される。

そのような状況で、これからは異文化理解や異文化コミュニケーションが重要になる。その際に、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって不可欠である。もちろん社会のグローバル化の進展への対応は、英語さえ習得すればよいわけではない。世界の歴史・文化等の教養とともに、思考力・判断力・表現力等を備えることにより、情報や考えなどを積極的に発信し、主体的に相手とコミュニケーションができる児童を育成していかなければならない。

(3) 小中の現状と課題から →資料1

平成26年度小学校外国語活動実施状況調査で、中学1年生の8割が「小学校の英語の授業が役に立った」と回答し、中学校教員も、生徒が以前より「英語の音声に慣れ親しんでいる」と回答したことから、「聞く」「話す」活動を中心とした外国語活動は、成果があったと言える。一方、中学1年生の8割以上が「英単語を読むことや書くこと」を学習しておきたかったと回答していることから、小学校時代に「読む」「書く」活動も含めた言語活動に知的要求が高まっていることがわかる。これまでの成果と課題から、今後の小学校外国語教育では、中学年から「聞く」「話す」活動からコミュニケーション能力の素地を養い、高学年では、「聞く」「話す」技能の定着を目指しながら、「読む」「書く」ことに慣れ親しむ指導が求められる。

これからの小学校英語教育には、「読む」「書く」を含めた総合的な資質の育成が求められている。この課題を解決するには、児童の実態に合った絵本を活用した授業を中心に単元構成を工夫することが有効であると考えられる。絵本の読み聞かせは、児童の想像力や好奇心を育て、ことばや認知の発達に効果がある。また、絵と文字があることで、児童が単語や英文を認識し、意味を理解しやすくなるとともに、発達段階に応じた絵本を選び、音声と文字を一致させることで、学習効果を期待できる。絵本を読み聞かせることで、音声によるインプットを行い、他者に読み聞かせをするなど絵本の活用を通じた単元構成を工夫する。以上のように、目的を明確にした単元を構成することで、自ら英語の文字を読もうとし、文字を書き写そうとするなど、英語の音と文字を学ぶ楽しさを体験できる外国語教育を目指したい。

3. 研究仮説

- (1) 学習内容に合った絵本を指導方法を工夫して読み聞かせていけば、児童は無理なく文字に慣れ親しむだろう。
- (2) 目的を明確にして絵本を活用していけば、児童は主体的に学ぼうとするだろう。

4. 研究の内容

絵本を活用して、無理なく音と文字を結びつけるための手立てとして、次の3つの手立てから仮説についての有効性を検証した。

(1) 仮説(1)について

ア 学習内容に合った絵本の選定

絵本を選ぶ際に、以下の視点で選書した。

- (ア) 絵本全体の長さが適切であること(中学年 6～7分、高学年 8～12分)
- (イ) 文構造や語彙が平易であること
- (ウ) 英語の特徴的な音声やリズムがあること
- (エ) 主人公、登場人物が、児童にとって魅力的な設定であること
- (オ) 遊びの要素があること
- (カ) 他教科との融合がしやすいこと
- (キ) 読み聞かせ時に児童を参加させやすいこと
- (ク) 物語構造が繰り返し、または起承転結型であること
- (ケ) 絵本としての内容に何らかのテーマをもつこと

(ア)～(オ)については、低学年で使用する際に重視し、(カ)～(ケ)については、高学年の選書の際に重視した。

また、発達段階に応じた絵本を選ぶために以下の特徴にも配慮した。

対象学年	学習内容	本の特徴
中学年	音声に慣れ親しむ	繰り返しがあり、語彙が増やせる。 体の動きを通し、理解できる。
高学年	絵本を通して考える、 学ぶ	使わせるための語彙のインプットができる。 異文化理解、他者共感を促す。 多読へのスタートとなる。 文字読みの始まりからリテラシー指導へつながる。

イ 絵本の活用法と指導法の工夫

どの時間を使って絵本を活用するかについては、3つの方法で活用した。

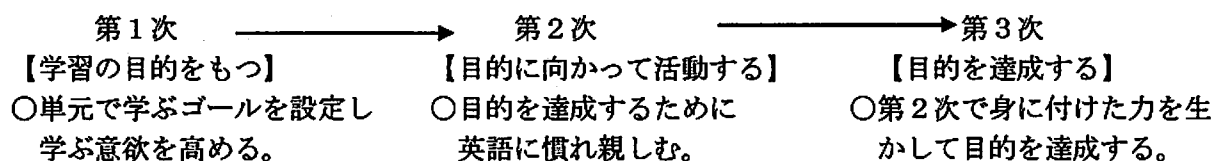
- (ア) 単元の目的として絵本を活用する。
- (イ) 帯活動の中で活用する。
- (ウ) 朝の読書の時間に読み聞かせをする。

絵本の指導方法については、『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』を参考に、以下の10項目を意識しながら、読み聞かせを行った。

- ・読んでいる箇所を、指で指しながら読む。
- ・絵本の文字を音声に変換する方法を示す。
- ・既習の単語や文を読ませてみる。
- ・登場人物の声を变えて、表情豊かに表現する。
- ・ジェスチャーで示す。
- ・文脈や絵から語の意味を推測させる。
- ・思考を働かせる質問をする。
- ・時々止まって、話の流れを確認する。
- ・児童に本の内容やまとめや感想を聞く。
- ・同じ本を何度も繰り返し読んであげる。

(2) 仮説(2)について

ウ 学習の課題を明確に設定し、絵本を活用する単元構成の工夫



5 実際の研究

(1) 仮説1の実践例

ア 学習内容に合った絵本の選定方法

(ア) 3、4年生で使用した絵本 →資料2

本校の3、4年生は、朝の15分を使って毎週1回短時間学習で外国語活動を行っている。その中で、児童の発達段階を考慮した絵本を選び、読み聞かせを行った。

数の指導で使用した絵本 ()内は、「4 研究の内容」「ア 本を選んだ視点」

・『Counting』 (ア) (イ)

写真とともにアルファベットで数を表している。音と文字を結び付ける作業を自然に行うことができる。

・『Spot Can Count』 (ア) (イ) (ウ) (エ)

犬の Spot が隠れている動物を探していく。いろいろな動物を見つけていくストーリーが児童の関心を高め、How many ～? の尋ね方に慣れ親しむこともできる。

・『FIVE Little MONKEYS jumping on the bed』 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (キ)

5匹の猿がベッドの上で遊ぶ話が児童の興味を引く。How many ～? と聞いていくと児童は猿の数を数える。数がアルファベットで表されているので、発音している文字を指さしていくことで、音と文字を結び付けることができる。

色の指導で使用した絵本

・『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?』 (ア) (イ) (ウ) (エ) (キ)

What do you see? と尋ねながら、児童の大好きな動物の名前と色を答えていくことでコミュニケーションしながら読み聞かせができる。同じフレーズを繰り返していくので、児童も自然と発話することができるようになる。

・『COLOR SURPRISES』 (ア) (オ) (キ)

色の中に動物が隠れているので、クイズ形式で読み聞かせを進めていく。色が文字で示されているので、自然に文字に慣れ親しむことができる。

・『LEMONS ARE NOT RED』 (ア) (イ) (ウ) (オ)

色の違うものとあっているものが交互に現れる。色についての語彙を増やすとともに、not を使った否定形に親しむことができる。

3、4年生の絵本の読み聞かせでは、主に (ア) ～ (ウ) の観点を中心に選書した。

(イ) 6年生で使用した絵本

絵本づくりで使用した絵本

・『The World in a Supermarket』 (ア) (イ) (ウ)

様々な国で買い物をする絵が描かれているので、食べ物^{食べ物}の文字表記と絵が一致し、理解しやすい。また、使用している英語表現も“Here are 食べ物 from 国名.”の表現が繰り返されてるので、無理なく慣れ親しむことができる。

・『Alphabeasties』 (オ) (キ) (ケ)

大文字と小文字で動物を形作った絵本である。児童に自由な動物を描かせることで、楽しみながら何度も書き写し、慣れ親しむことができる。また『Hi, friend! Plus』のジングルと合わせると、アルファベットの名前と音が一致することができる。

・『WILD Alphabet』 (オ) (キ)

アルファベットの順番で動物が紹介されている。仕掛け絵本となっているので、児童は興味をもって絵本に慣れ親しめる。また、『Alphabeasties』を作成する際の参考となる。

帯活動の中で使用した絵本

・『Where's Spot?』 (ア) (イ) (ウ) (エ)

犬のSpotがかくれている場所を探す絵本である。児童たちに“Where is spot?”と板書し、問いかけながらすすめていくと児童とコミュニケーションしながら、読み進めていくことができる。

・『I LIKE ME!』 (イ) (エ) (ケ)

主人公の前向きな生き方について、“I like ~.”を発話しながら、表現に慣れ親しむ。主人公の行動と場面絵が児童の興味を引くことと、自己肯定感について考える機会となる。

・『From Head To Toe』 (ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (キ)

児童の大好きな Eric Carle の絵本である。体の部位と動作とともに “I can do it!” という表現に慣れ親しむことができる。

・『CHILDREN'S PICTURE ATLAS』 (カ) (ケ)

“Where do you want to go?” を使いながら、世界遺産や名産品と文字と音で確かめていく。おすすめマップの作り方の参考になる。

イ 絵本の活用法と指導法

(ア) 単元の目標として絵本を製本する。

・『The World in a Supermarket』

まず、『The World in a Supermarket』を読み聞かせし、「6年1組のオリジナル絵本『The World in a Supermarket』を英語で書こう」というゴールを示す。身近な食べ物を取り扱うことで関心を高め、書きたいという意欲を高める。

次に、食べ物^{食べ物}の名前や原産国を尋ね合う活動の後に、丁寧に文字を写して絵本を作る。また、できた絵本を5年生や4年生に読み聞かせすることを伝え、相手意識をもって絵本を作成させた。

絵本を作成することは児童のゴールであるが、教師の指導内容は、児童がアルファベットに慣れ親しみ、丁寧に書き写せるようになることである。

・『Alphabeasties』

『Alphabeasties』は、児童がオリジナルの絵本を製作することを目的に帯活動の中で指導し、アルファベットを書き写すことに慣れ親しむ。

帯活動の中で、文字に慣れ親しみながら、『明神小版 Alphabeasties』を作る目的をもたせた。児童の目標は絵本を作ることであるが、教師の指導内容は、アルファベットに慣れ親しむことを目的とするので、絵を描くことに凝りすぎたり、アルファベットの形からかけ離れた動物を描いた場合は、軌道修正を促す。 →資料3

(イ) 帯活動の中で活用する。

帯活動として、10分程度を使い、単元で使用するフレーズを読み聞かせる。絵本の中で出てきた言葉を、アクティビティーで使うことによって、より発話を促す。

読み聞かせ(10分) + 年間指導計画に基づく指導(35分)

・『Where's Spot?』

道案内の場面で必要な Where is ～? の表現に慣れ親しむ。

・『I LIKE ME!』

おすすめの場所を紹介する場面で必要な I like ～? の表現に慣れ親しむ。

・『From Head To Toe』

おすすめの場所を紹介する場面で必要な You can ～. の表現に慣れ親しむ。

・『CHILDREN'S PICTURE ATLAS』

おすすめの場所を紹介する場面で、地図を使って相手に伝える表現を総合的に慣れ親しむ。教師が、地図を使って相手にわかりやすく伝えようとするモデルとなる。

(ウ) 朝の読書の時間に読み聞かせをする。

3、4年生

・『Ketchup On Your Cornflakes?』 (ア) (イ) (ウ) (オ) (キ)

いろいろな物の上に、いろいろな物をかけたり、おいたりして、楽しみながら語彙を増やすことができる。Do you like? と on ～. の表現の繰り返しなので、中学年の児童が慣れ親しみやすい。

・『It look like spilt milk』 (ア) (オ) (キ)

こぼれたミルクの形をもとに様々なものを想像して、児童とコミュニケーションしながら読み聞かせができる。

5、6年生

・『Tadpole's promise』 (エ) (ク) (ケ)

物語の展開がおもしろい。難しい単語もあるが、絵が児童の理解を促してくれる。特に、ラストのシーンの意外性が、物語を読む楽しさを児童とともに味わえる。

・『HANDA'S SUEPEISE』 (ア) (イ) (ク) (ケ)

動物と食べ物が出てくるので自然に語彙を増やすことができる。また、他国の文化の様子が丁寧に描かれているので、読み聞かせ後の発問で、異文化理解の指導ができる。

ウ 学習課題の明確化と単元構成の工夫

(ア)「6年1組のオリジナル絵本『The World in a Supermarket』を英語で書こう」→資料4

明神小学校では、国語科において単元のゴールを示し、そのゴールに向かって、児童たちが学習する単元構成を研究している。そこで国語科の教育のように単元を通して言語活動を設定し、単元構成を工夫する。英語の絵本を製作することを単元の目標として、児童に文字に慣れ親しませる学習活動で、絵本を活用する。絵本づくりの活動の中で、児童たちはより文字に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を養うことができると考える。

時	学習活動	評価規準
1	○絵本を楽しみ、食品とその原産国に関心をもつ。 ※自分たちも絵本を作りたいことを伝える。 ○外国産の食べ物を持ってきて、名前を尋ねる言い方に慣れ親しむ。	◇世界の国に関心を持ち、絵本の英語表記を読もうとしているか。
2	○尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 ○絵本を作成する。① (資料5)	◇身近な食品や原産国を尋ねたり、調べたりしているか。
3	○原産国名を英語にし、国を大陸に分ける。 ○絵本を作成する。②	◇食品の名前や産地を丁寧に書き写そうとできたか。
4	○絵本を発表し、相互鑑賞する。(5年生へ) →資料6	◇文字を介して、相手とコミュニケーションしようとしているか。

(イ)「餃子をおとずれた外国人に、餃子のよいところを紹介しよう」→資料7

餃子市のよいところを紹介するのに必要な表現を絵本で使われている表現で慣れ親しんでいく。餃子市のよいところを紹介していくなかで、必要な表現に自然に慣れ親しめるように帯活動の中で絵本を活用していく。

使用する表現	使用する絵本
・Where is ～.	『Where's Spot?』
・You can ～.	『From Head To Toe』
・I like ～.	『I LIKE ME!』
・Where do you want to go?	『CHILDREN'S PICTURE ATLAS』

(ウ) 単元名 「餃子市のイベントを紹介しよう」 →資料8、9、10

単元全体では「餃子市のイベントを紹介しよう」という目的を立てて、ふるさと学習と場面の設定に意味を持たせた。ふるさとを紹介することにとっても意欲的であったので、アルファベットに関する絵本の読み聞かせを文字の導入として行い、板書やワークシートで文字を書き写す活動を取り入れた。

絵本による文字指導 ・『Alphabeasties』の作成	→	音と文字を結び付ける学習活動 ・板書をワークシートへ書き写す
----------------------------------	---	-----------------------------------

6 研究の結果

(1)「オリジナル絵本『The World in a Supermarket』を英語で書こう」(平成28年度6月)の結果

ア 検証授業後の自由記述アンケートから(がんばっていることやうれしかったこと)

- ・ゲームをやる時に、あまり仲が良くない人と話せた。
- ・英語は全然できなかったけど、少し話せるようになってうれしかった。
- ・前まで覚えられなかったけど、覚えられてうれしい。
- ・A～Zまでの発音の歌をがんばって覚えている。
- ・英語がローマ字とはちがうことがわかった。
- ・英語がわかるとうれしい。
- ・アルファベットゲームが楽しい。

イ 情意面アンケート、質問4「外国の方が英語で話しかけてきたらどう思いますか」における全国調査(文部科学省)の平均と本校児童のアンケート結果 →資料11

	全国平均	本校(4月)	本校(7月)
A	47.3%	61.9%	90.4%
B	23.0%	23.8%	9.5%
C	3.8%	9.5%	0%
D	5.7%	4.8%	0%

A…英語やジェスチャーで答える。

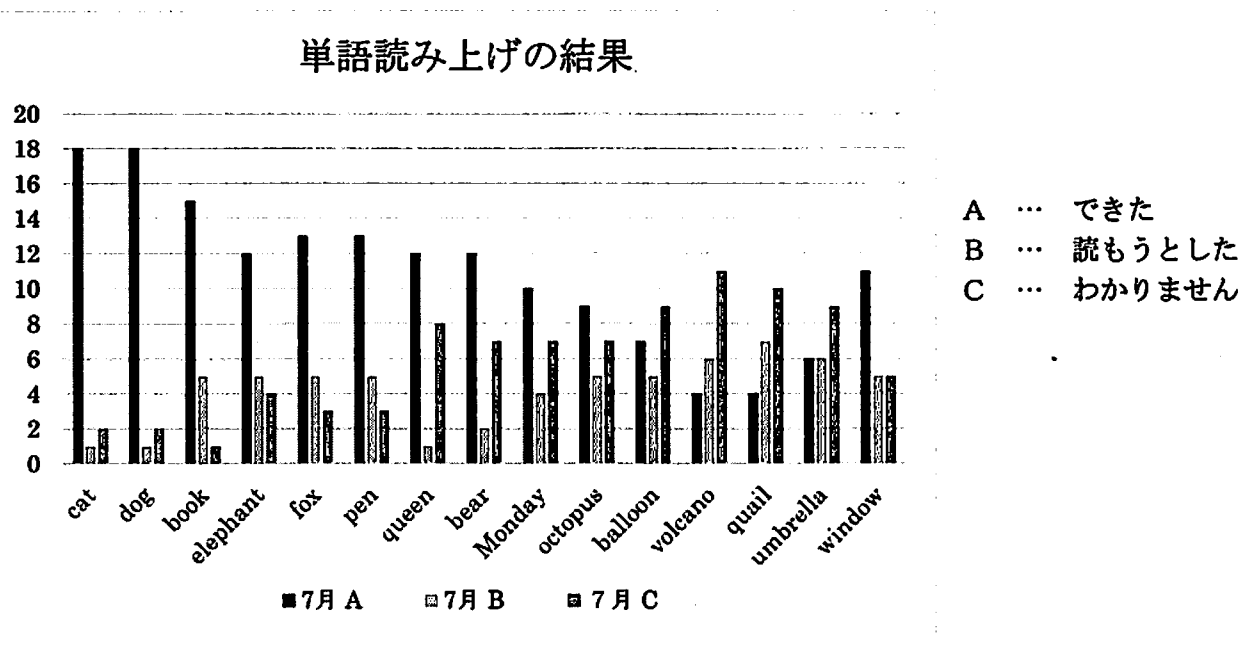
B…日本語で答える。

C…黙る。

D…逃げる。

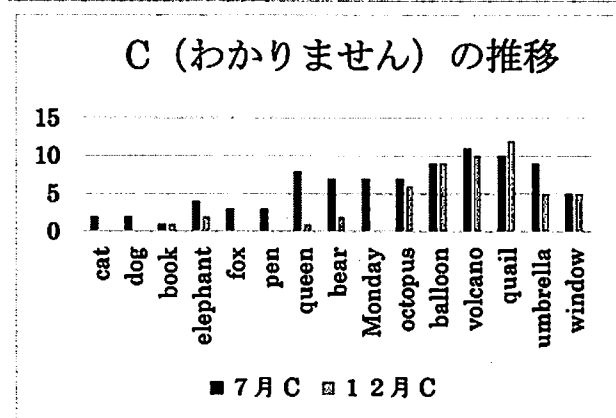
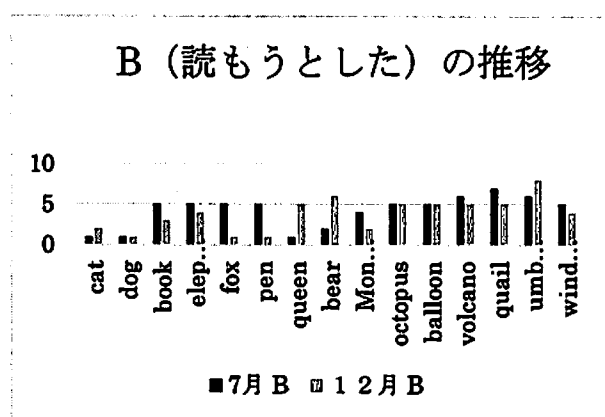
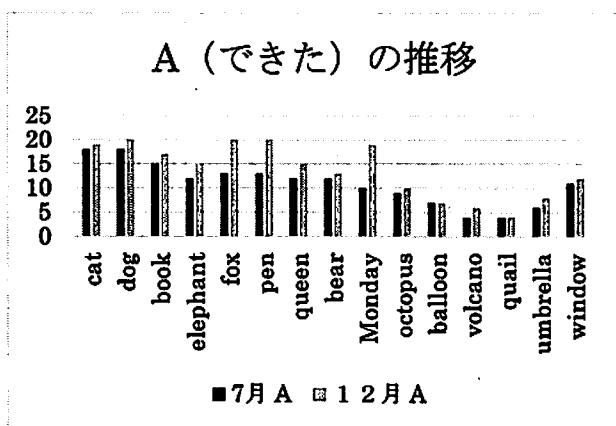
2回目の意識調査の中で、「外国の方が英語で話しかけてきたらどうしますか」に対して、英語やジェスチャーを使って応えるという子が増え、逃げるや黙るなどの答えがなくなった。

ウ 技能面アンケート(単語の読み上げ)の結果 →資料12

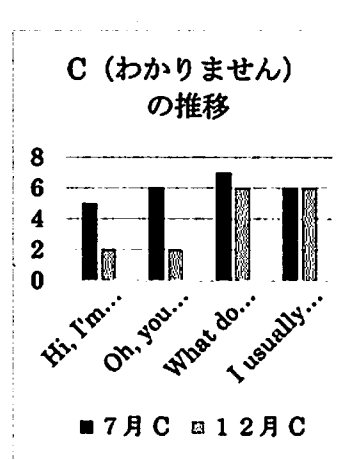
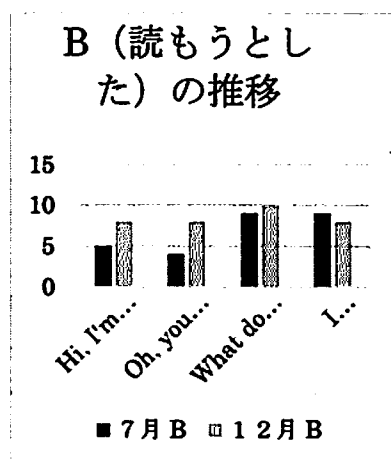
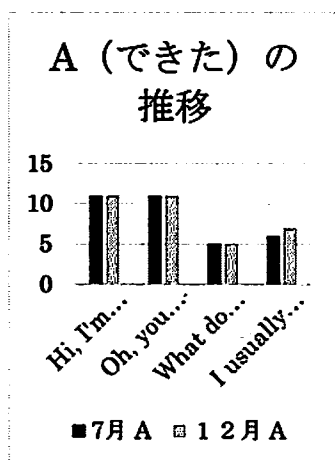


cat、dog、fox、pen など短く子音+母音+子音の1音節の単語の正答率は6割の正答率を超え、AとBを合わせると8割以上であった。2音節以上の単語や未習得の単語は正答率は低かったが、文字を頼りに読もうとするBの児童も多かった。絵本でよく読み上げたbearの単語も正答率は6割を超えた。

(2)「銚子をおとずれた外国人に、銚子のよいところを紹介しよう」(平成28年度12月)の結果
 ア 単語の読み上げ 資料12



イ 英文の音読



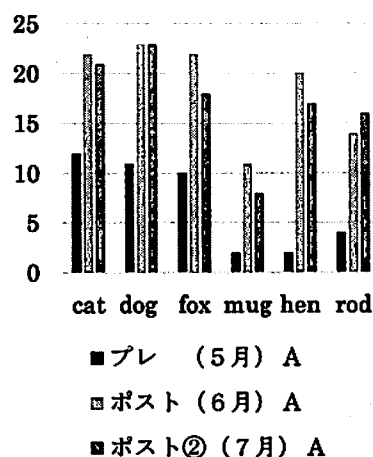
ウ 考察

- (ア) 技能面でのアンケートを実施した。絵本の読み聞かせの中で文字を指し示し、音と文字を一致させる練習で、出てきた単語を抵抗なく読めるようになった児童が多かった。
- (イ) 自然に文字に親しむ状況を設定することで、児童は抵抗なくアルファベットを読もうとしたり、丁寧に写して書こうとしたりすることができた。また、間違いを恐れずに何とか読もうとしたり、初めて見た単語も何とか読もうとしたりする児童も増えてきた。
- (ウ) 中学校1年生の英文も、事前指導なしで読ませてみたが、76%の児童が何とか英文を読もうとする姿が見られた。「読む」技能が上がることによって、文字を手掛かりに何とか相手に伝えようとする情意面の成長も見られた。

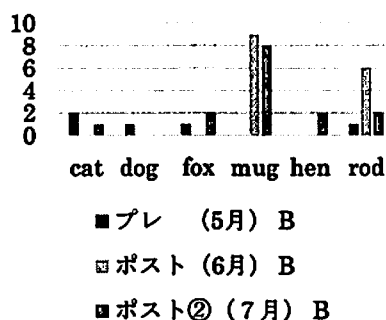
(3)「銚子市のイベントを紹介しよう」(平成29年度6月)の結果

ア 子音字+母音字+子音字の単語の読み上げ →資料13

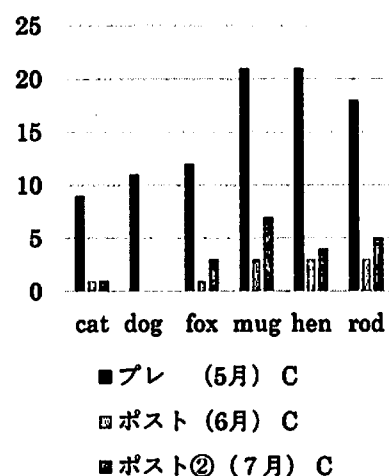
A(できた)の推移



B(読もうとした)の推移

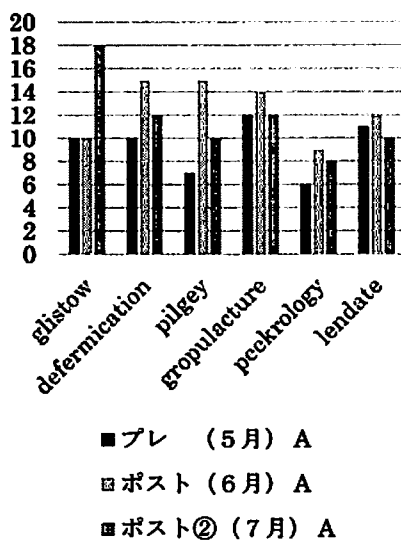


C(わかりません)の推移

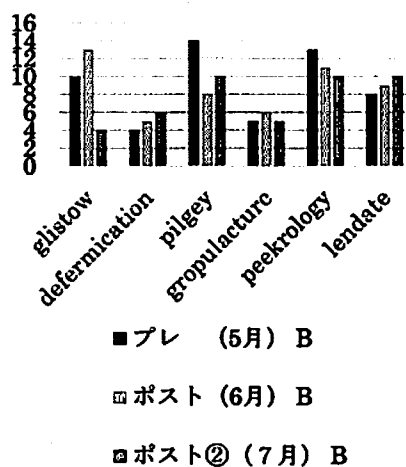


イ 非単語の即時反復

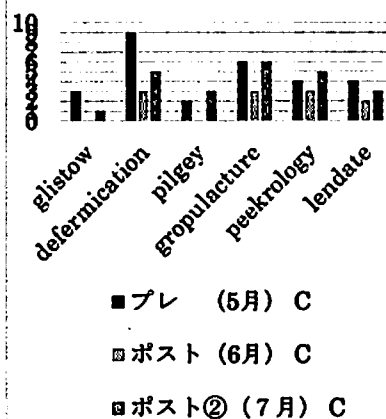
A(最後まで読めた)の推移



B(読もうとした)の推移



C(わかりません)の推移



ウ 考察

- (ア) 技能面のアンケートから、絵本による音声面でのインプットとともに、アルファベットの書き写しで文字に慣れ親しむことで、出てきた単語を読もうとする児童が既習の単語については9割を超えた。
- (イ) 授業直後に行った技能面のアンケートを3週間後に再び行った。A(できた) B(読もうとした)の割合が下がったものもあるが、C(わかりません)の児童はプレテストやポストテストの一回目よりも少なく、「読む」技能が定着していると考えられる。
- (ウ) 非単語の即時反復の結果は、プレ、ポストテストとともに良い結果であった。この発達段階の児童たちは、「聞く」技能が優れていると考えられる。

7 成果と課題

(1) 成果

ア 絵本の選定方法

児童の発達段階と習熟度に合った絵本を使用することで、児童の意欲を維持しながら文字指導へつなげることができた。児童の興味に合った絵本を文字を指し示しながら読み聞かせることで、文字への抵抗感が少なくなり、「読む」活動に自然に慣れ親しむことができた。

イ 絵本の活用法と指導法

単元全体での絵本を活用する方法と、帯活動で活用する方法で、単語を読もうとする意欲が高まった。絵本の作成では、「この単語はどう書くの？」といった主体的な質問が多くなった。また、相手に絵本の読み聞かせをする学習活動では、自分たちで文字を指し示しながら読んでいたので、自然に文字と音を結びつけようとする活動ができた。

指導方法では、『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』の絵本の読み聞かせ方10項目のうち、特に「指で指す」「文字を音声に変換」「既習の単語や文を読み聞かせる」が、文字と音を結びつける学習に有効だった。

ウ 学習課題の明確化と単元構成の工夫

目的をもって絵本を活用することにより、「読む」「書く」活動に意欲的に取り組む児童が増えた。課題の明確化は、文字に無理なく慣れ親しむとともに、自ら読んだり、書いたりしようとする意欲化につながった。特に、絵本を書くために文字を丁寧に書こうとしたり、読み聞かせのために、どのように書くのか調べようとする意欲が高かった。また、文字を丁寧に書き写せば、相手によく伝わることに気付き、1つ1つの文字を大切にしようとする意識が高まった。

エ 全体的な成果

絵本の読み聞かせから、楽しく「読む」「書く」活動に慣れ親しむことで、自然に文字を読もうとする児童が多くなった。読み聞かせ後、文字と音を一致させる練習して発音に自信が出てくると児童の声も大きくなり、コミュニケーション活動も活発になった。

(2) 課題

ア 実態に合った絵本を選定することで、児童は自然に文字指導に慣れ親しめたが、技能面のアンケートでの結果から、アルファベットを読むことに抵抗を感じる児童もいる。自己評価カードなどを活用して、外国語活動を通してできるようになったことを増やしていきたい。特に高学年の指導は、funの楽しみから、interestingな知的好奇心の高まる楽しさのある授業を目指したい。

イ 絵本で読み聞かせた英文から文字指導の導入へ自然につなげる指導が今後必要である。多くの児童が自ら文字を読んだり、書いたりすることに取り組めたが、絵本による文字への慣れ親しみから、『Hi, friends! Plus』を活用するなど、無理なく文字指導へ移行できるようにしたい。

ウ 児童が取り組む課題を明確にしつつ、教師が児童に身に付けて欲しい力を明確にしなければならない。このことが、今後必要とされる評価につながると考えられる。

エ 小学校の英語教育は、英語の学習が好きなまま中学校へ無理のない形で送りだしたい。小学校の6年間を見通した上での系統的な活動内容とともに、中学校・高等学校での英語教育の連携を視野に入れて計画を立てる必要がある。また、英語学習のスタートが、3年生からとなる。それぞれの段階で出会う学習経験の質を向上させるために、中学年、高学年、中学生と系統性をもたせた絵本の活用法と指導法を考えなければならない。

資料編

資料1 平成26年度 小学校外国語活動実施状況調査の結果（概要） 文部科学省調査

中学1、2年生の小学校の英語授業に対する意識

- 「小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったことはあるか」という問いに対し、中学1年生の
- 88.8%が「アルファベットを読むこと」
 - 83.9%が「アルファベットを書くこと」
 - 82.8%が「英語で簡単な会話をすること」
 - 75.8%が「英語の発音を練習すること」と回答。

- 「小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと」という問いに対し、中学1年生の
- 80.1%（77.9%）が「英単語を読むこと」
 - 83.7%（81.7%）が「英単語を書くこと」
 - 79.8%（77.6%）が「英語の文を読むこと」
 - 80.9%（78.6%）が「英語の文を書くこと」と回答。



小学校高学年で「読む」「書く」も含めた言語活動への知的要求が高まっている状況。

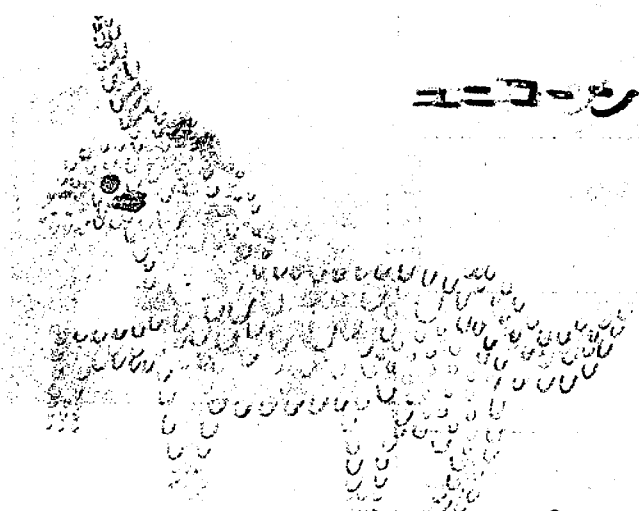
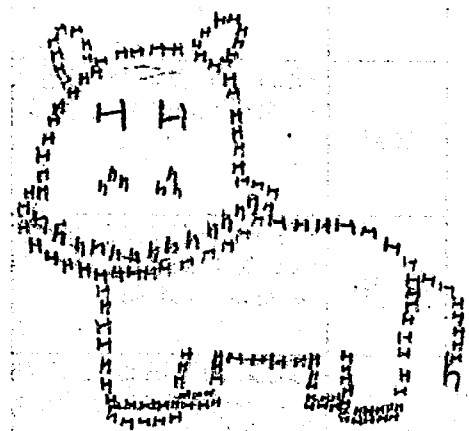
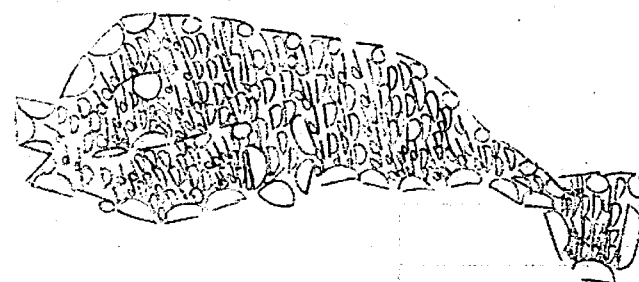
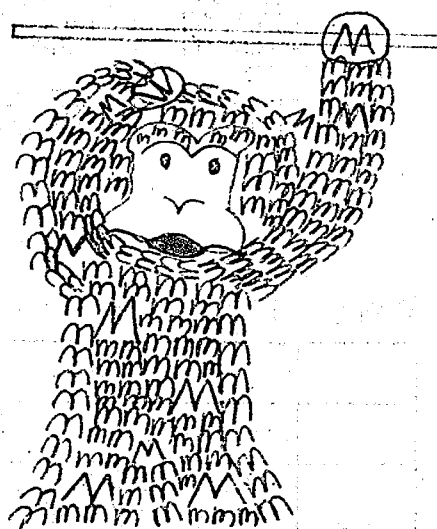
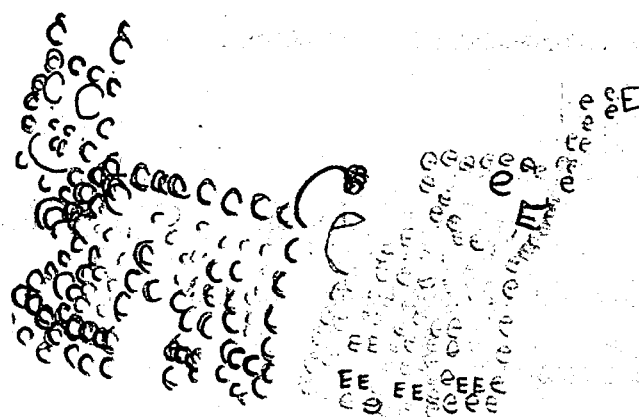
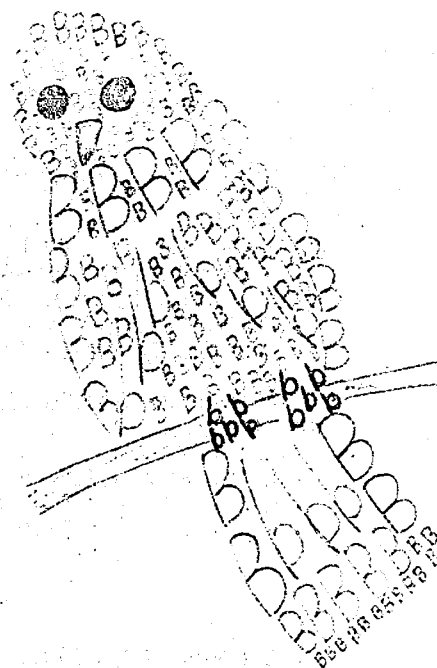
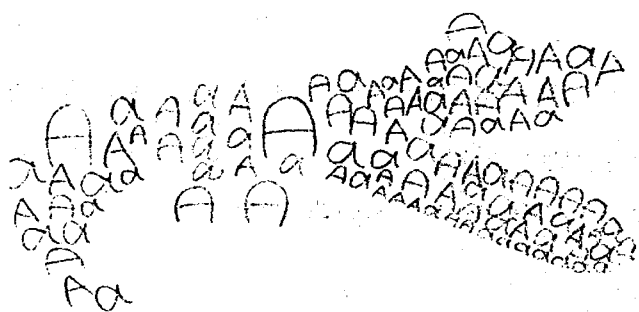
- 「英語の授業の中で、どのようなことをもっとしてみたいか」という問いに対し、中学2年生の
- 59.7%が「英語で映画などを見ること」
 - 38.7%が「英語で歌を聴いたり歌ったりすること」
 - 33.8%が「英文法の学習」と回答。
- 一方で、
- 8.7%が「自分の意見や考え、感想などを英語で発表すること」
 - 6.4%が「ディベートやディスカッション」と回答。

資料2 平成29年度 3・4年生年間指導計画

中学年（3・4年生）	
CAN-DO	
4月	・自己紹介ができる。 ・1～12までが数えられる。
5月	・簡単な挨拶ができる。 ・12～20までが数えられる。
6月	・色紙等を見て、色を言える。 ・身近にある家具や自分が持っている文具が言える。
7月	・天気、曜日が言える。 ・4～6月までで習ったことが自然に言えるようにする。



資料3 絵本『alphabeasties』によるアルファベット練習と製本化



資料4 検証授業(1回目)指導案 平成28年7月

(1) 目標

○食べ物の原産地を尋ねたり答えたりして、友だちと積極的にコミュニケーションを楽しもうとする。

○アルファベットを丁寧に書き写したり、発声したりしながら文字に慣れ親しむ。

(2) 展開

過程	主な活動	・指導・支援 ◇評価	資料
雰囲気づくり	○雰囲気づくり (Warm up) ・簡単な英語で挨拶する。 (使用する英語表現) Hello! How are you? How is the weather? What day is it today? What time is it? ・児童同士でお互いに挨拶する。 ・ジングルを歌う。〔帯活動〕	・笑顔で楽しい雰囲気をづくり、元気に挨拶できるように支援する。 ・よくできた児童を良い例としてみんなの前で紹介し、共有化する。 ・ゆっくり英語で話したり、日本語で個別に声をかけたりすることで、質問に的確に表現できるように助言する。 ・アルファベットカードを見せながらフォニックスに触れる。	『Hi, friends! plus』 アルファベットカード
復習	○前時までのダイアログを確認する。(Review) ・アルファベットゲーム〔帯活動〕 影の一部にライトを当て、何のアルファベットか予想をして、ホワイトボードへ記入する。 ・教師のジェスチャーに児童が英語を言う JET: Excuse me. HRT: Yes. JET: What is it? HRT: It's ~. JET: Thank you. HRT: You're welcome.	・アルファベットに慣れ親しむゲームを行い、文字を書くことの抵抗をなくす。 ◇ゲームを通して、アルファベットを丁寧に書き写したり、発声したりしているか。(行動観察) ・ジェスチャーに合わせて英語を発声することを通して場面に合わせて英語で話すことに慣れ親しむ。 ・“What is it?” “It's ~.” を復習し、本時のアクティビティの際に、自然に使えるようにする。	『Hi, friends! plus』 ホワイトボード
導入	○JETとHRTのデモンストレーションから、前時との違いに気づき、本字のめあてを知る。 JET: Excuse me. HRT: Yes. JET: What is it? HRT: It's ~. JET: Where is it from? HRT: It's from ~ JET: Thank you. HRT: You're welcome. ○練習 (Practice) 伝染ゲーム ・JETが“Where is it from?” とたずね、児童がそれぞれ“It's from ~.”と答える。2人組でじゃんけんをして、負けた子は勝った子の言い方に変える。自分の言い方をたくさん広められるようにじゃんけんを進める。	・担任とJETのデモンストレーションを2~3回行い、2回目以降は、違いを強調すること、児童が気付きやすいように配慮する。 ・ジェスチャーを大きくすることで、児童の場面への理解を促す。 ・掲示物で“Big voice” (大きな声) “Smile” (笑顔) “Eye contact” (目を合わせる) を意識させ、積極的にコミュニケーションをできるようにする。 ・自然に英語表現に慣れ親しめるよう楽しく活動できるようにゲーム形式で行う。 ・男女で交互に行うことで、性別に関わりなくゲームができるように配慮する。	
活動	○活動 (Activity) ① コミュニケーション活動 JET: Excuse me. HRT: Yes. JET: What is it? HRT: It's ~. JET: Where is it from? HRT: It's from ~ JET: Thank you. HRT: You're welcome. ・JETとデモンストレーションする。 ペアで相談して、お互いの持ってきた食べ物の原産地を聞く。	・積極的にコミュニケーションを児童を賞賛することめる。 ・より多くの友達に尋ねたり、答えたりするように助言することで、食べ物の原産地に興味をもち、文化の違いによっていろいろな食べ物がこに気がつけるようにする。 ◇食べ物の原産地を尋ねたり答えたりして、友達と積極的にコミュニケーションをすることができたか。 (関・意・態：行動観察) ・英単語がわからない時は、和英辞書を引くか	

身近な食品の原産国をたずねよう！

	○活動 (Activity) ② 絵本作り ・食べ物 from 国名 の英語表現を使って絵本を作る。 (予想される児童の表現) Pasta from Italy. Coffee from Brazil. Beef from U.S.A. Banana from Philippine	、HRT又はJETに尋ねて、黒板に書いたスペルを丁寧に書き写す。 ・児童が思考する場面を確保する。 ◇自分の持ってきた食べ物を、英語で丁寧に書くことができたか。 (関・意・態：作品)	絵本 『The World in a Supermarket』 絵本シート
振り返り	○振り返り (Reflection) ・数組のペアの活動を見て感想を伝え合う。 ・振り返りカードを記入する。 (資料6) ・あいさつをする。	・感想を交流することによって気づき、友達の良、次の活動への意欲をく。	

資料5 自分のもってきた外国製品をまとめるワークシート

自分のもってきた外国製品(外国産品)を記入しよう！

1. _____ from _____

2. _____ from _____

3. _____ from _____

4. _____ from _____

5. _____ from _____

6. _____ from _____

7. _____ from _____

8. _____ from _____

9. _____ from _____

10. _____ from _____

11. _____ from _____

12. _____ from _____

自分のもってきた外国製品(外国産品)を記入しよう！

1. _____ from _____

2. _____ from _____

3. _____ from _____

4. _____ from _____

5. _____ from _____

6. _____ from _____

7. _____ from _____

8. _____ from _____

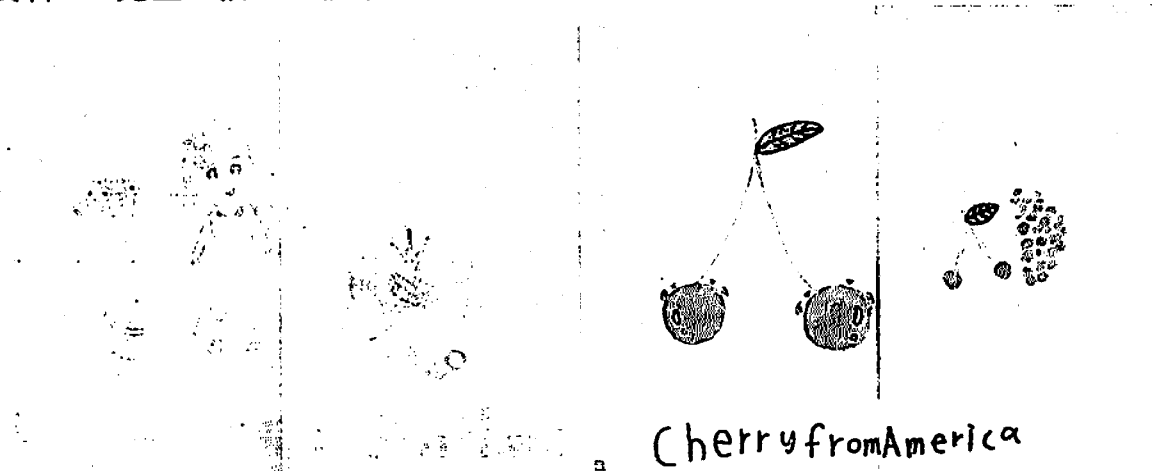
9. _____ from _____

10. _____ from _____

11. _____ from _____

12. _____ from _____

資料6 児童の描いた絵本



資料7 検証授業（2回目）指導案 平成28年度12月

(1) 目標

- 友達やJETと外国語を使って積極的に話そうとしている。(コミュニケーションへの態度)
- 銚子のおすすめポイントを紹介する英語表現に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)

(2) 展開

時	学 習 活 動 と 内 容	○教師の働きかけと配慮事項◇評価	資料
10	1 英語学習のへの雰囲気を作る。 ・雰囲気づくり (Warm up) 担任やJETと英語で挨拶する。 (使用する英語表現) ・ How are you? ・ How is the weather? ・ What day is it? ・ What time is it? ・ 読み聞かせ (Reading time)	○笑顔で楽しい雰囲気をつくり、元気に挨拶できるように支援する。 ○よくできた児童を良い例としてみんなの前で紹介し、共有化する。 ○絵本を通して、児童と教師のコミュニケーションになるように配慮する。 ○担任とJETのジェスチャーに合わせて、児童が英語を言うことで、発音しやすい雰囲気を作る。	絵本
5	2 前時までのダイアログを確認し、本時のめあてをつかむ。 ・復習(Review) 前時までの復習をする。 (使用する英語表現) A: Excuse me. B: Yes. A: I want to go to ~? B: It's in ~. It's ~. A: Thank you. B: You're welcome. Have a nice travel.	○間違いを気にせずに、楽しく英語の表現に慣れさせる。 ○カードと世界地図を黒板に貼り、前時までの学習を振り返りやすいように配慮する。 ○コミュニケーションのポイントを図で示し、児童の積極的な発話を促す。“Big voice” (大きな声) “Smile” (笑顔) “Eye contact” (目を合わせる)	『Hi, Friends!2』 DVD カード 世界地図
銚子市の情報を伝えたり、聞いたりしよう。			
25	3 本時のめあてに沿って、英語表現に慣れ親しむ。 ・練習 (Practice) 伝染ゲームで ‘I want to go to ~?’ ‘It's in ~.’に慣れ親しむ。 ・活動1 (Activity 1) 訪問者と案内役に分かれ、銚子のおすすめの場所を紹介する。 ・活動2 (Activity 2) グループに分かれて、ガイドのロールプレイングを行う。 (活動の手順) ①銚子訪問者と案内役に分かれる。案内役は地図や写真をもって席につき、訪問者は活動カードをもって、ガイド役のところに行く。 ②銚子訪問者は、自分が行きたい場所を伝え、案内役は、場所を示しながら、地図や写真で相手が行きたい場所について情報を伝える。	銚子市の地図や写真を用いて、児童の興味や関心を高める。 ○銚子市の情報を知らない人に教えることを伝え、ねらいを明確に示すことで、活動への意欲が持続できるように配慮する。 ○文になっていなくても、キーワードで伝えてもよいことを知らせ、相手に伝えようとする意欲を高める。 ○表情やジェスチャーの大切さを伝えることで、積極的なコミュニケーションを促す。 ○ジェスチャーをするなど、伝え方を工夫している児童をほめ、全体に紹介する。 ◇友達やJETと積極的に外国語で会話し、慣れ親しんでいるか。(慣れ親しみ：ワークシート、行動観察)	絵カード 銚子の地図 ワークシート ジェスチャーについてのDVD
5	4 本時を振り返り、まとめる。 ・振り返り (Reflection) 数組のペアの活動を見て感想を伝え合う。 黒板の地図を完成させる。 振り返りカードに記入する。	○感想を交流することで、会話の楽しさや新しい気づき、友達の良い所などを認め合うことで、次の活動へ意欲を高め、学びの意識をつなぐ。 ◇友達やJETと積極的に話そうとしているか。(関・態：振り返りカード行動観察)	振り返りカード

資料 8 餃子のイベント



資料 9 検証授業（3 回目）指導案（単元計画） 平成 29 年度 5 ～ 6 月

外国語活動の学習計画 明神小 6 年 5 月 31 日

Lesson 2-2 Topic [When is your birthday?]

目 標 英語での月の言い方を慣れ親しみ、誕生日を尋ねたり答えたりする。

使用表現 January～December When is your birthday? My birthday is～.

過 程	学 習 活 動	準備、使用表現
warm up 導入, 雰囲気作り 英語の準備運動	OHRT: Hello. How are you? ※HRTが全体で挨拶 ※JTEが全体で挨拶 OJTE: How are you? 児童2～3人と挨拶する。 ※HRTが指名する。 ○ HRT: Let's talk to Jane! (ジェーン先生と会話してみましょう。) 例 JTE: What is the date today?	fine hungry thirsty sleepy etc. Any challenger?
practice 既習の復習, または本時に かかわる復習	OHRT: Let's review! OHRT: It's reading time! A～Eを読み、自分なりの Alphabet animal を書いてみる。 OHRT: Let's sing a jingle!	『Amazing activities』 Hi, friends! plus
Activities 本時の学習 中心提示	友達に誕生日を聞いてみよう！ OHRT: 今日は、友達に誕生日を聞くことができるようにします。まず、誕生日を言うのに必要な言葉は何ですか？ ※月の言い方が必要であることに気付かせる。 では、英語での月の言い方を聞いてみましょう。 OJTE: January ～ December ♪ チャンツ "Twelve Months." OHRT: では、月の言い方でキーワードゲームをします。 OALT: (Explain) Make pairs. Put one eraser between you and your partner. I will say the month. Repeat after me. Now "May" is the key word. When I say the keyword, you can take the eraser. Who can take the eraser faster? ※児童の理解度を見て、HRTが日本語で補足説明をしながら進める。	掲示物 (Jan. ～のカード) Hi, friends! When is your birthday? My birthday is in .

	OHRT:相手に誕生日を聞く時には、どう聞けばいいでしょう? A:When is your birthday? B:My birthday is in OHRTとJTEが、誕生日の聞き方と答え方のデモンストレーションをする。 OHRT:ペアを作って、2人組で誕生日を聞いてみましょう。	
reflection 終末、英語 の整理運動	○ (時間があったら) 振り返りカードを記入する。 ○ HRT 今日の良かったところを言う。 ○ ALT 今日の良かったところを言う。 ○ あいさつ Good bye, See you next ~.	振り返りカード

外国語活動の学習計画 明神小 6年 6月14日

Lesson 2-4

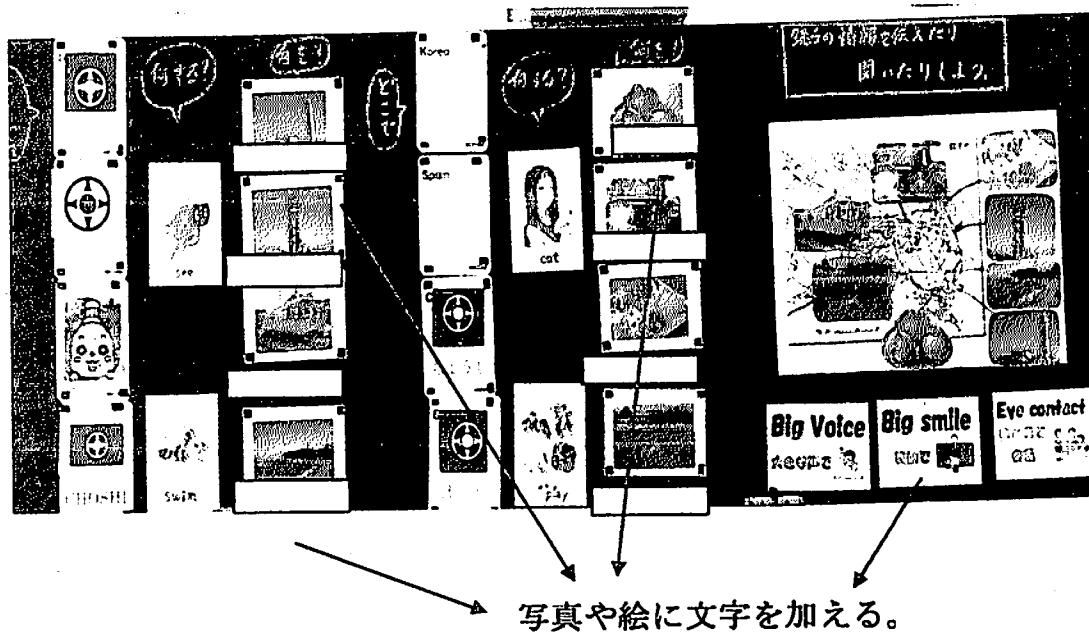
Topic [When is your birthday?]

目 標 英語での月の言い方を慣れ親しみ、日付を尋ねたり答えたりできる。

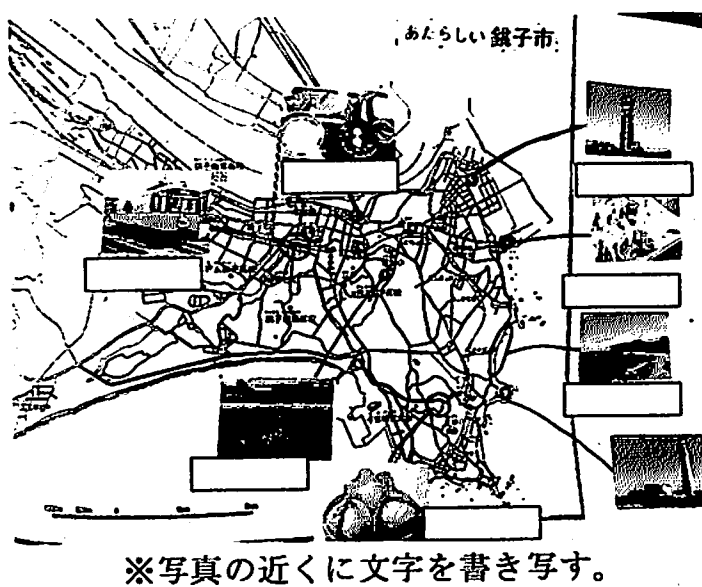
使用表現 January~December When is ? It's , ~.

過 程	学 習 活 動	準備、使用表現
warm up 導入、雰囲気作り 英語の準備運動	OHRT: Hello. How are you? ※HRTが全体で挨拶 ※JTEが全体で挨拶 ○JTE: How are you? 児童2~3人と挨拶する。 ※HRTが指名する。 ○ HRT: Let's talk to Jane! (ジェーン先生と会話してみましょう。) 例 JTE: What is the date today? OHRT: Make pair please. Let's communicate in 1 min.	fine hungry thirsty sleepy etc. Any challenger?
practice 既習の復習、または本時にかかわる復習	OHRT: Let's review! ※優秀作品を見せて称賛する。 OHRT: It reading time! K~Oの読み聞かせをする。 ○Let's draw picture! ※K~Oの Alphabet animal を書く。 ○ジングル♪ 動物 A~O	『Alphabeasties』 Hi, friends! Plus
Activities 本時の学習 中心提示	OHRT:相手に誕生日を聞く時には、どう聞けばいいでしょう? A:When is your birthday? B:My birthday is OHRTとJTEが、誕生日の聞き方と答え方のデモンストレーションをする。 OHRT:では、ペアを作って、2人組で誕生日を聞いてみましょう。 ○Let's listen 2 を聞いて、誕生日はいつか、選で結ぼう。 ○月日の聞き方と言い方を覚えたので、次はこんなことを言ってみよう。 (HRTとJTEのデモンストレーション) 餃子市のイベントを紹介しよう! A:When is "toumorokosi hayagui taikai"? B:Toumorokosi hayagui taikai is , th. ○(Practice) ペアで練習する ○みんなの前で発表する。教師と → 子ども同士 ○(Practice) ペアで練習する	掲示物 英文カード Jan. カード Hi, friends! When is your birthday? イベントカレンダー The event is th.
reflection 終末、英語 の整理運動	○ (時間があったら) 振り返りカードを記入する。 ○ HRT 今日の良かったところを言う。 ○ JTE 今日の良かったところを言う。 ○ あいさつ Good bye, See you next ~.	振り返りカード

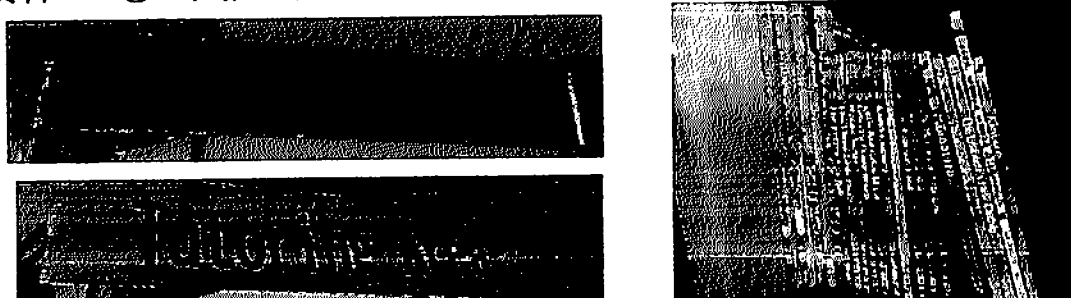
資料10① 板書での文字指導



資料10② ワークシートでの文字指導



資料10③ 自然に目に触れるようにする文字指導



資料 1 1 情意面アンケート（実態調査と結果）

平成 28 年度 第 6 学年 男子 8 名 女子 13 名 合計 21 名

	平成 28 年 4 月				平成 28 年 7 月			
	A	B	C	D	A	B	C	D
1 外国語の授業は楽しいですか。	17	3	1	0	14	7	0	0
2 英語で歌ったりチャンツをしたりすることは楽しいですか。	10	9	1	1	15	6	0	0
3 英語で友達と会話することは楽しいですか。	15	5	1	0	14	7	0	0

○ 1～3 の質問の答え

A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない

	平成 28 年 4 月				平成 28 年 7 月			
	A	B	C	D	A	B	C	D
4 外国の方が英語で話しかけてきたらどうだと思いますか。	13	5	2	1	19	2	0	0

○ 4 の質問の答え

A 英語やジェスチャーで答える。 B 日本語で答える。 C 黙る。 D 逃げる。

資料 1 2 技能面アンケート用紙 (平成 28 年度)

① 技能面アンケート用紙 第6学年 男子8名 女子13名 合計21名

外国語のアンケート			※テストではあいません		
○ 英単語を読みましょう!					
cat	dog	book	elephant	fox	pen
queen	bear	Monday	octopus	balloon	volcano
quail	umbrella	window			
○ 英文を読みましょう!					
① Hi. I'm Mike Brown.			② Oh, you are Mike.		
③ What do you usually do on Sunday?			④ I usually play basketball.		

② 技能面アンケート結果 平成 28 年 7 月

単語	A	B	C	単語	A	B	C	単語	A	B	C
cat	18	1	2	dog	18	1	2	book	15	5	1
elephant	12	5	4	fox	13	5	3	pen	13	5	3
queen	12	1	8	bear	12	2	7	Monday	10	4	7
octopus	9	5	7	balloon	7	5	9	volcano	4	6	11
quail	4	7	10	umbrella	6	6	9	window	11	5	5

英 文	A	B	C
Hi. I'm Mike Brown.	11	5	5
Oh, you are Mike.	11	4	6
What do you usually do on Sunday?	5	9	7
I usually play basketball.	6	9	6

③ 技能面アンケート結果 平成 28 年 12 月

A……できた B……何とか読もうとした C……「わかりません」

単語	A	B	C	単語	A	B	C	単語	A	B	C
cat	19	2	0	dog	20	1	0	book	17	3	1
elephant	15	4	2	fox	20	1	0	pen	20	1	0
queen	15	5	1	bear	13	6	2	Monday	19	2	0
octopus	10	5	6	balloon	7	5	9	volcano	6	5	10
quail	4	5	12	umbrella	8	8	5	window	12	4	5

英 文	A	B	C
Hi. I'm Mike Brown.	11	8	2
Oh, you are Mike.	11	8	2
What do you usually do on Sunday?	5	10	6
I usually play basketball.	7	8	6

資料 1 3 技能面アンケート

平成 29 年 第 6 学年 男子 13 名 女子 10 名 合計 23 名

① 技能面アンケート用紙

外国語のアンケート ※テストではありません。

○ 英単語を読んでみよう!

cat dog fox mug hen rod

○ 先生の真似をして言ってみよう!

glistow deformation pilgey
gropulacture peekrology lendate

② 技能面アンケート結果 (平成 29 年 5 月 8 日～5 月 12 日)

A……できた B……何とか読もうとした C……「わかりません」

単語	A	B	C	単語	A	B	C	単語	A	B	C
cat	12	2	9	dog	11	1	11	fox	10	1	12
mug	2	0	21	hen	2	0	21	rod	4	1	18

単語	A	B	C	単語	A	B	C
glistow	10	10	3	deformation	10	4	9
Pilgey	7	14	2	gropulacture	12	5	6
peekrology	6	13	4	lendate	11	8	4

③ 技能面アンケート (平成 29 年 6 月 16 日)

単語	A	B	C	単語	A	B	C	単語	A	B	C
cat	22	0	1	dog	23	0	0	fox	22	0	1
mug	11	9	3	hen	20	0	3	rod	14	6	3

単語	A	B	C	単語	A	B	C
glistow	10	13	0	deformation	15	5	3
pilgey	15	8	0	gropulacture	14	6	3
peekrology	9	11	3	lendate	12	9	2

④ 技能面アンケート (平成 29 年 7 月 10 日～14 日)

単語	A	B	C	単語	A	B	C	単語	A	B	C
cat	21	1	1	dog	23	0	0	fox	18	2	3
mug	8	8	7	hen	17	2	4	rod	16	2	5

単語	A	B	C	単語	A	B	C
glistow	18	4	1	deformation	12	6	5
pilgey	10	10	3	gropulacture	12	5	6
peekrology	8	10	5	lendate	10	10	3

資料 1 4 参考文献

『小学生に英語の読み書きをどう教えたらよいか』 田中真紀子 研究社

『Early Days Counting』 TOP THAT

『Spot Can Count』 Eric Hill Fun with Spot

『FIVE Little MONKEYS jumping on the bed』 EILEEN CHRISTELOW Clarion Books

『Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?』 Eric Carle Publishers Weekly

『COLOR SURPRISES』 CHUCK MURPHY Little Simon

『LEMONS ARE NOT RED』 LAURA VACCARO SEEGER SQUARE FISH

『The World in a Supermarket』 Rozanne Lanczak Williams creative teaching

『Alphabeasties』 Clarendon & Franklen gothic Blue Apple Books

『WILD Alphabet』 Mike Haines & Julia Frohlich KINGFISHER

『Where's Spot?』 Eric Hill FREDERICK WARNE

『I LIKE ME!』 NANCY CARLSON Penguin Young Readerrs Group

『From Head To Toe』 Eric Carle Harper Festival

『CHILDREN'S PICTURE ATLAS』 award publications limited

『Ketchup On Your Cornflakes?』 Nick Sharratt Scholastic Children's Books

『It look like spilt milk』 Charles G. shaw Harper Collins US

『Tadpole's promise』 Jeanne Willis and Tony Ross ANDERSEN PRESS

『HANDA'S SUEPEISE』 EILEEN BROWNE CANDLEWICK PRESS